



株式会社 クシム

2022年10月期
第3四半期 決算説明会資料

2022年9月14日

1. 2022年10月期 第3四半期 連結業績ハイライト

2. 事業の状況

1. ブロックチェーンサービス事業
2. システムエンジニアリング事業
3. インキュベーション事業

3. 2022年度 連結業績の見通し

4. さらなる成長への取り組み

連結業績ハイライト

不採算事業から撤退したため、売上高は前年同期比で減収
 しかし、当社のEBITDAマージンは大幅に伸長
 全ての収益指標にて黒字化を継続達成

(百万円)	FY21.3Q 連結（実績）	FY22.3Q 連結（実績）	前年対比
売上高	1,378	1,199	87%
EBITDA	△23	248	-
営業利益	△95	89	-
経常利益	△75	83	-
当期純利益	△98	626	-

EBITDAマージン

約21%

売上高営業利益率

約7%

注) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

暗号資産相場の低迷による時価評価の影響は限定的であった 各運用資産を適切な手法にて管理を徹底

- 3Q期間（5月～7月）に暗号資産の運用による新たな売上高計上はなし
-

- 保有暗号資産の時価評価益は、営業外にて、およそ、2Mを計上
-

- 資産を分散する目的や、トレードペアに必要なために保有する暗号資産
- 相場全体が落ち込む局面で、各資産の特徴を精査、かつ、適切な手法で管理
- 保有暗号資産の時価評価益は2M程度

- 保有暗号資産の売却損は、およそ、営業外にて▲18Mを計上
-

- 資金決済のため、保有する暗号資産を売却
- 相場全体が落ち込む局面でも決済時に必要な実行
- ただ、売却損は▲18M程度と影響は限定的

イーフロンティアの株式譲渡益、並びに、Eラーニング事業とLMSサービスの事業譲渡益が確定。第3四半期決算にて特別利益として計上

イーフロンティアの株式譲渡

- 株式譲渡する相手会社の名称 | 株式会社ピアズ
- 株式譲渡日 | 2022年5月1日
- 当該子会社の名称及び事業内容
 名称：株式会社イーフロンティア
 事業内容：3DCGソフトウェア
 動画制作
 ゲームソフトの企画開発販売
- 譲渡の内容
 譲渡株式数 : 20,004,011株
 譲渡価額 : 174,000千円
 譲渡益 : 81,893千円
 譲渡後の所有株式数 : 0株(議決権所有割合0%)

Eラーニング事業・LMSサービスの譲渡

- 事業譲渡する相手会社の名称 | 株式会社ODKソリューションズ
- 事業譲渡実行日 | 2022年7月1日
- 当該子会社の名称及び事業内容
 Eラーニングシステム「SLAP」
 研修管理システム「iStudy LMS」に関連する事業
 * (ブロックチェーンに関連する事業を除く)
- 譲渡の内容
 譲渡価額 : 180,000千円【+消費税額】
 譲渡益 : 163,270千円

SEVENTAGE社の吸収合併に伴い、債務免除益を計上 一方、祖業の譲渡に伴い、ブロックチェーン講座等の全額減損を実施

株式会社SEVENTAGEの吸収合併

- 企業結合日 | 2022年7月1日
- 企業結合の法的形式 | 吸収合併形式

存続会社：チューリンガム株式会社
消滅会社：株式会社SEVENTAGE

- 取引の概要

連結子会社の効率経営と適切なグループ組織運営を目的とした組織再編

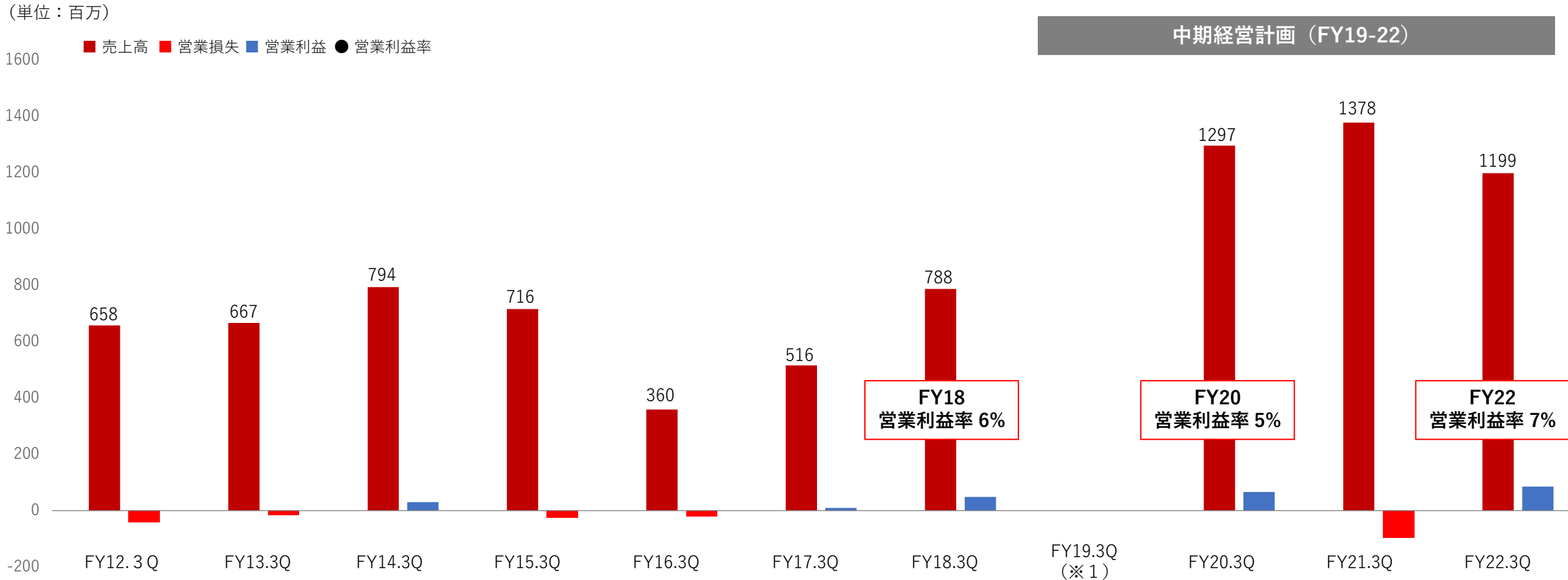
債務免除益（2Q） **： 24,600千円**

ブロックチェーン講座等の減損損失

- 対象資産
当社が保有するブロックチェーン技術等の技術者養成Eラーニングカリキュラムである無形固定資産
- 経緯
2022年7月1日付で当社のEラーニング事業及びLMSサービスの事業譲渡完了に伴う配信環境の変更等のため
- 評価の内容

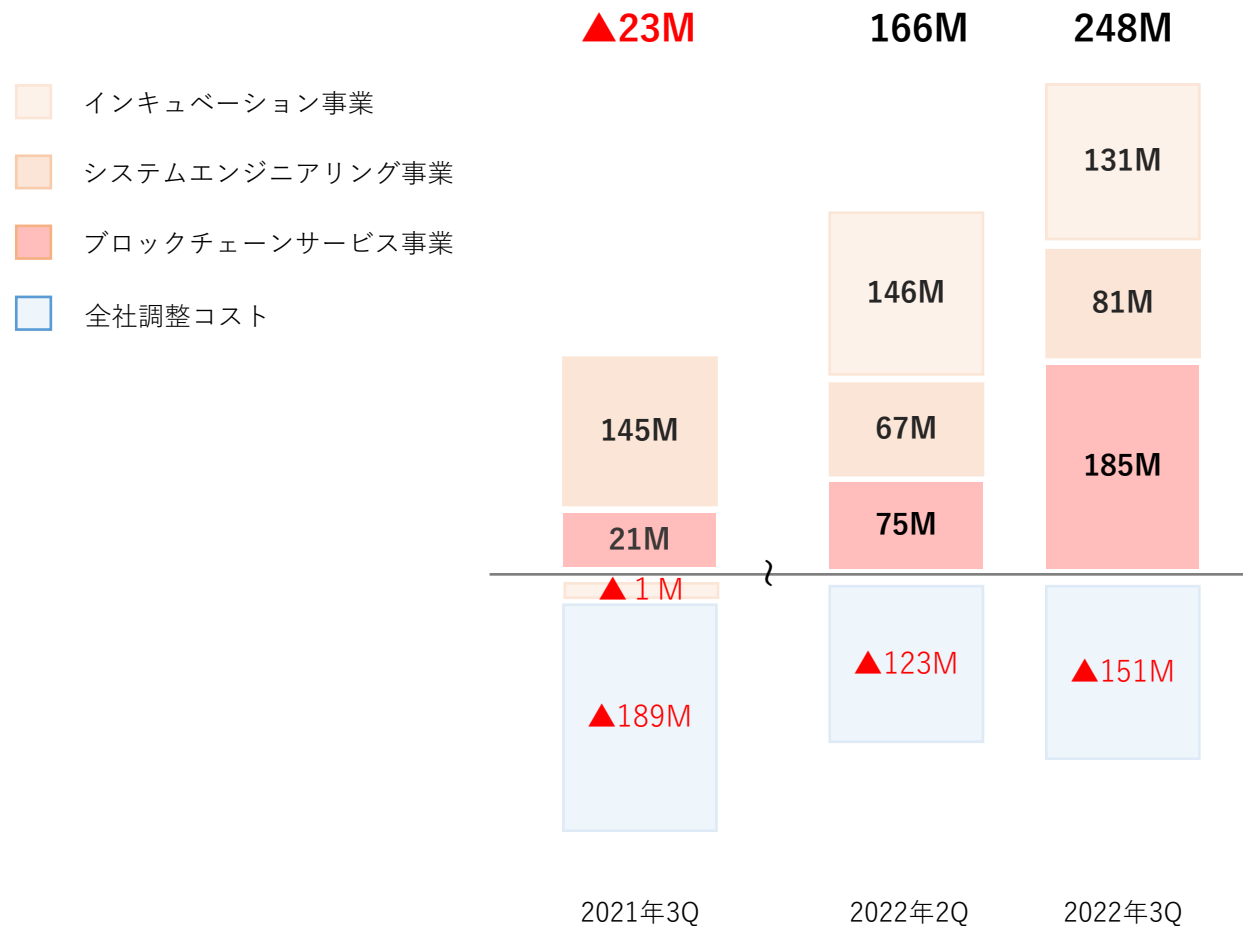
減損損失 **： 15,983千円**

過去10年において、最も高い売上高営業利益率を達成 赤字体質から脱却・収益力の着実な向上を継続



※1) FY19は10ヶ月の変則期間にて、3Q決算開示はなし
出所) 決算短信

各事業のEBITDAは大幅に継続伸長 企業価値の源泉であるCF総出力も着実に向上を維持



EBITDA (事業のみ)

前年同期比	+	271M
<hr/>		
FY22.2Q比	+	82M

全社調整コストにおける主な前年対比増減要因

① 要因 資本政策に伴い生じた支払報酬の減少	▲7M
② 要因 上記に係る証券事務手数料の減少	▲18M
③ 要因 M&A案件獲得するための販促費の減少	▲20M

引き続き、財務基盤は安定水準にある
十分な手元流動性を積極的な成長投資へ

連結BS (FY22.3Q)					
(百万円)	金額	構成比	(百万円)	金額	構成比
流動資産	2,711	41.1%	流動負債	347	5.3%
有形固定資産	13	0.2%	固定負債	334	5.0%
無形固定資産	2,213	33.5%	負債合計	682	10.3%
投資等	1,665	25.2%	純資産	5,921	89.6%
資産合計	6,603	100.0%	負債・純資産合計	6,603	100.0%

流動比率

771.7%

負債比率

11.6%

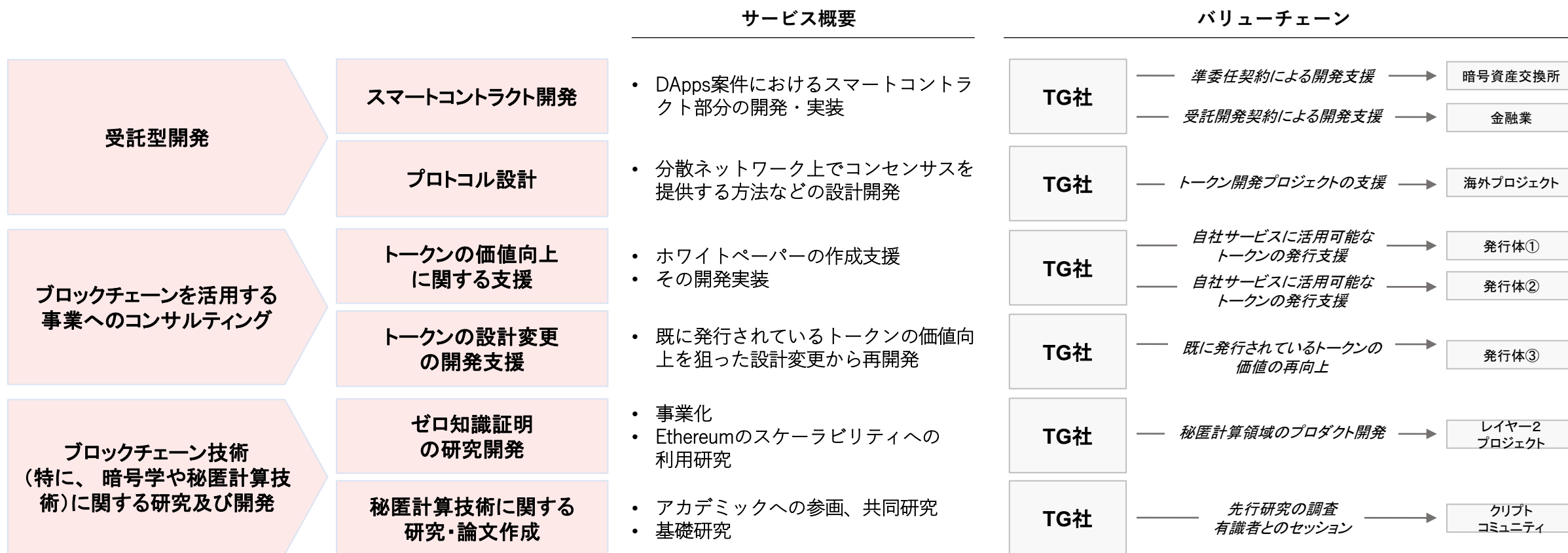
自己資本比率

89.2%

参照) 2022年第3四半期決算短信
注) 百万単位以下については、切り捨て表記としています

事業の概況

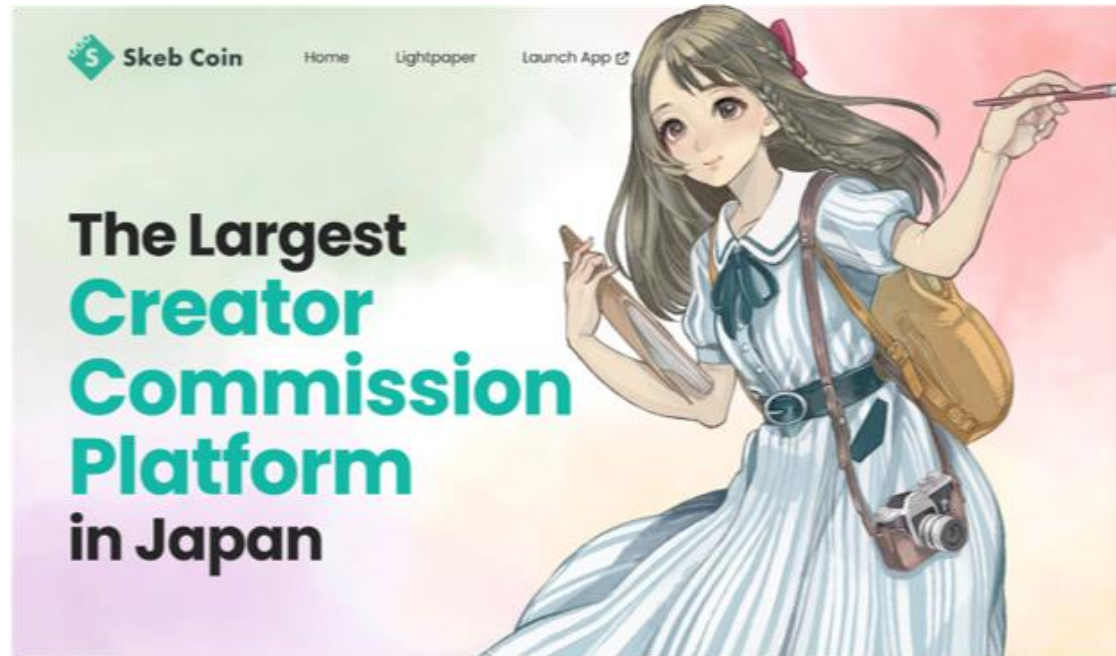
受託型開発のプロジェクトは堅調に推移 トークンエコノミクスと言われる暗号資産の利活用、そのデザインやアロケーションといった専門的なコンサルティングへの需要が旺盛



TG社：チューリング株式会社

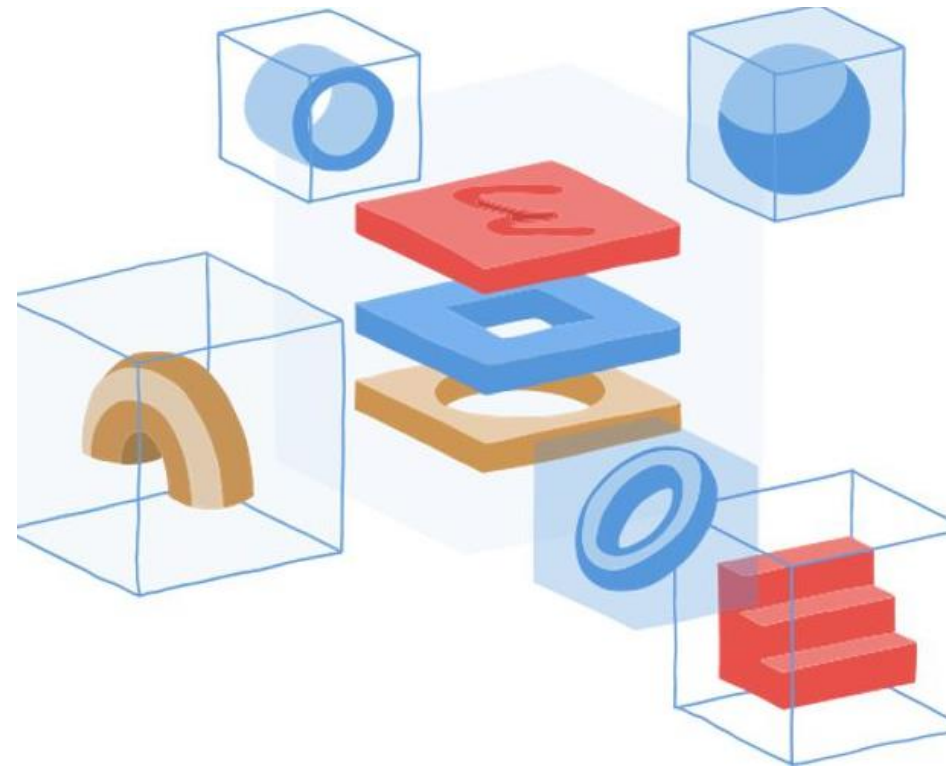
暗号資産 Skebコインの開発や付随するスマートコントラクトの開発、国内外取引所における上場支援やその他流動性向上のための施策にかかるコンサルティング業務

- ・ スケブコイン総発行枚数の 3.2%以上を報酬として受領

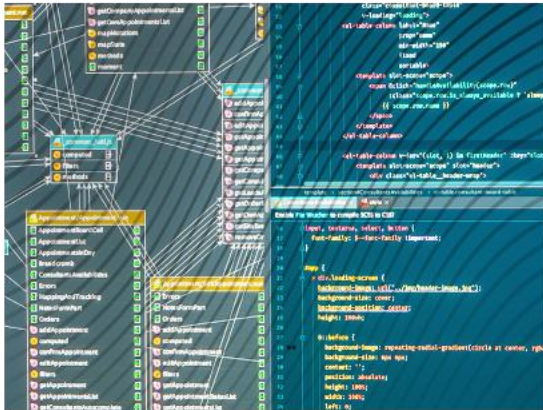


Secret Networkというデータの秘匿が可能なブロックチェーンを活用した事業をweb3テクノロジーと共に立ち上げ

- ・ 新規事業として順調に立ち上がり。3Qから収益化を達成

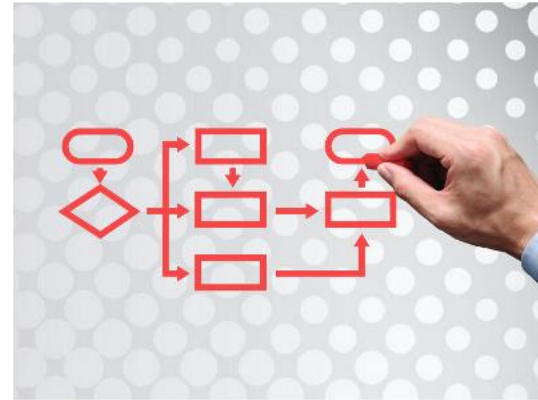


本セグメントのサービスラインは黒字基調を継続 引き続き、マージンの高い案件に経営資源を投下していく



■ SES

SESの稼働率は高水準を維持
各月単月黒字化を継続達成
営業面でシナジーを追求
エンジニア稼働率は大幅に改善
ロー・コストオペレーションを
継続強化



■ 受託開発／セキュリティ

大型のプロジェクトを複数受注
受注マージンの高い案件に注力
部門黒字化を継続達成
エンジニアリソースを充足
開発体制を強化中



■ 介護DX

ケアオンライン（ASPサービス）
の保守業務を島根事業所に集約
製品のアップデートを企図
販売網の拡大に向け、パート
ナー企業を拡大中



■ ITエンジニアの高度化

先端技術を応用するプロジェク
ト進行と合わせ、エンジニアの
スキルアップを実現

暗号資産市場の相場が冷え込むも、ポートフォリオを適切に管理 チャンスと捉え、複数の暗号資産に追加も投資実行 M&Aは、魅力的な案件のソーシングを継続中



■ 暗号資産の投融資事業

複数の暗号資産に投資を実行
着実に収益化を実現

- BTC・ETH等
- アルトコイン
- Defi銘柄
- その他

■ M&A や 資本業務提携

M&A仲介企業やデータベースを用いたM&A仲介サービスを活用し
候補となる企業のソーシングを
日々継続

引き続き、高度ITおよびブロック
チェーン領域の企業に集中してM
&Aの取り組みを進める



■ コンサルティング (ブロックチェーン領域)

ネクスコイン (NCXC)の価値向上
支援が始動

- GameFi領域への展開支援
- スマホアプリ「Six porker」との
コラボレーションを具現化
- その他提携も見据え、「NCXC
GameFiプラットフォーム」の
開発を推進

2022年10月期連結業績見通し

当期純利益は、第3四半期累計実績が通期業績予想を既に上回っております
 その他指標においても、通期にて上振れの可能性を追求してまいります

(百万円)	2022年3Q累計実績	2022年通期業績予想	進捗率	通期業績予想に対する進捗状況
売上高	1,199	1,998	60%	グループ各社は通期計画の達成に向け順調に進捗
EBITDA	248	436	57%	暗号資産市場の落ち込みによる業績への影響も限定的。大きな損失は回避
営業利益	89	191	47%	スケブコインは、想定よりも海外市場への上場が早期に決定し、収益化の機会を獲得 通期にて上振れの可能性を追求していく
経常利益	86	200	43%	
当期純利益	625	514	122%	特別利益の計上があり、減損損失を考慮しても堅調に進捗している。 通期では上振れの可能性

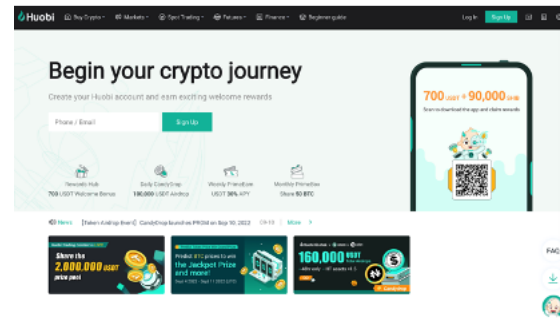
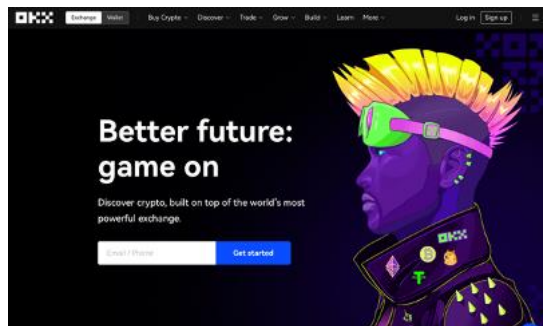
注) 百万単位以下については、切り捨て表記としています
 出所) 決算短信より抜粋

さらなる成長への取り組み

スケブコインの海外上場を複数達成し、バリューアップの加速を支援 本プロジェクトからの収益の最大化を図る

成長要因
1

出来高世界第2位の暗号資産交換所であるOKXに上場
ついで、Huobiグローバル他の海外交換所に引き続き、上場を加速
国内上場が本丸と位置づけ、コインのバリューアップに向けた施策を展開



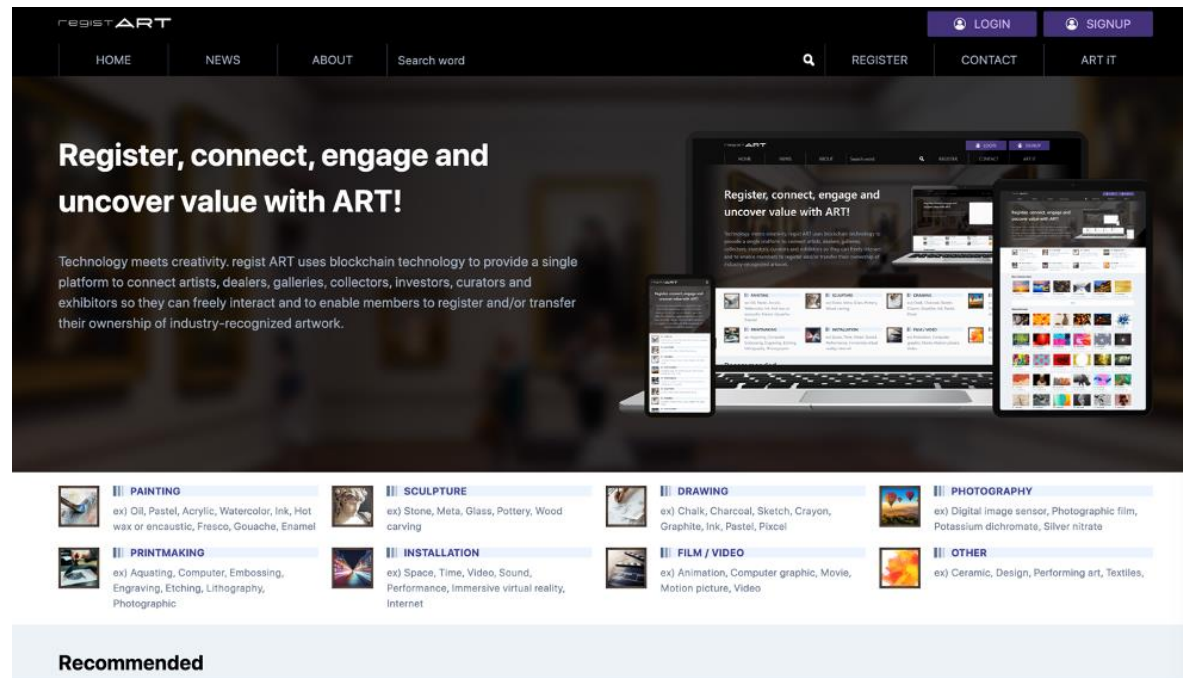
— その他交換所に上場 —> Skebコインの国内上場

成長要因
2

スケブコイン総発行枚数の 6.0%超を当社グループは保有（*OKXに上場時点）

アート×ブロックチェーンのスタートアップであるレジストアート社と暗号資産アートコイン（※仮称）に係る業務委託契約の締結に向けた検討を開始

- FY20.6月に資本業務提携
- FY22.10月より本プロジェクトが始動。プロジェクト概要は随時公表を予定

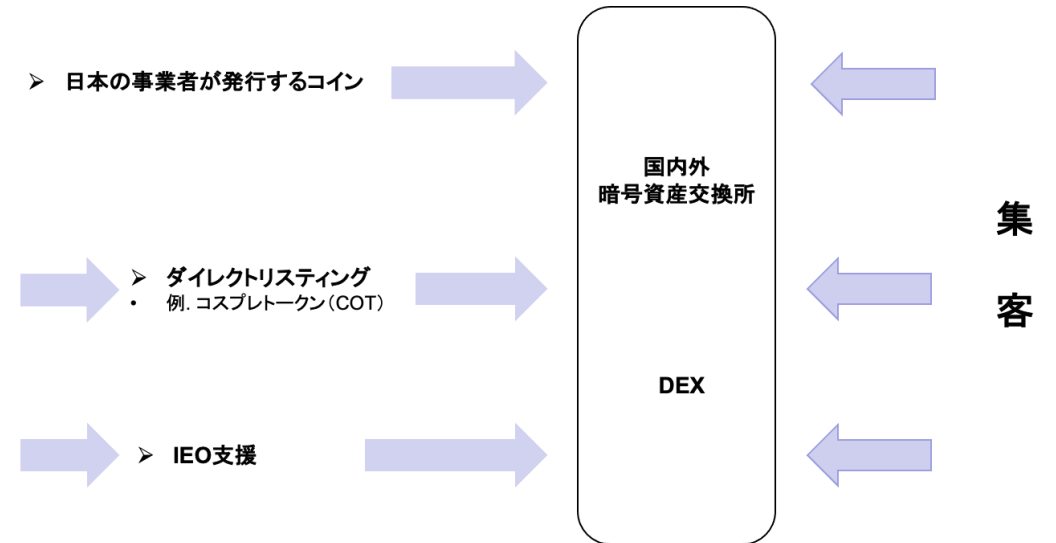
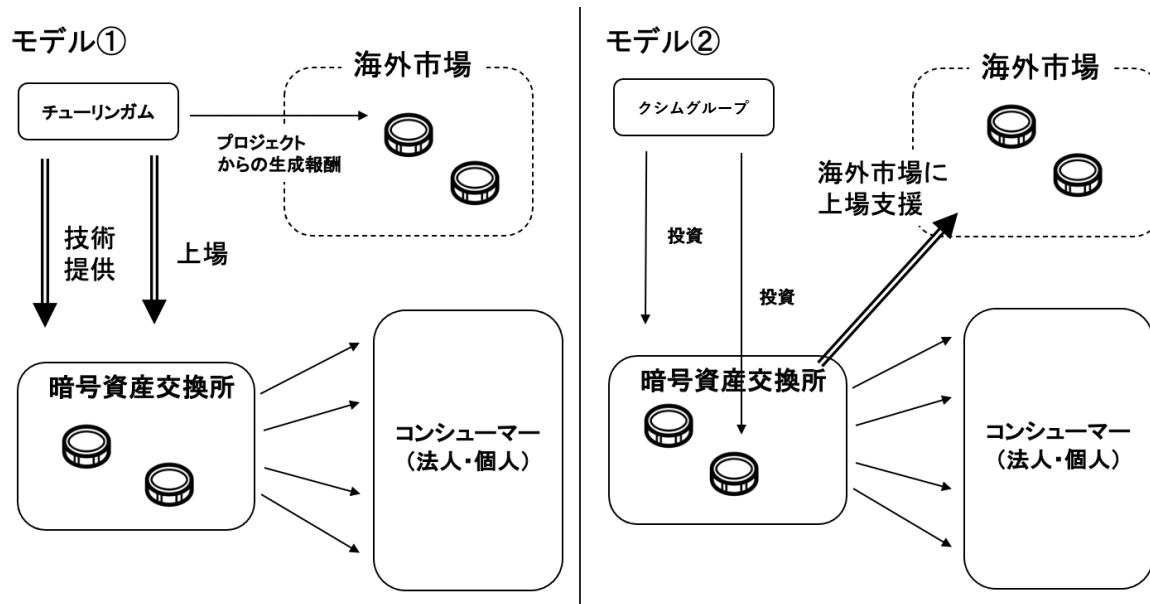


出所) <https://www.reg-art.com/>
参照) 当社リリースより抜粋

当社のユニークなビジネスモデルが新たな成長源泉として稼働
 国内外の暗号資産交換所とのパートナーシップも活用。本ビジネスを積極的に展開する
 NFT / メタバース / GameFi といった分野にも積極的にチャレンジ

魅力的な国内・海外プロジェクトに参画
 秘匿計算領域の製品の開発・ローンチ

国内外の暗号資産交換所にトークンIEOを支援
 国内事業者のトークン組成からコンサルティング支援

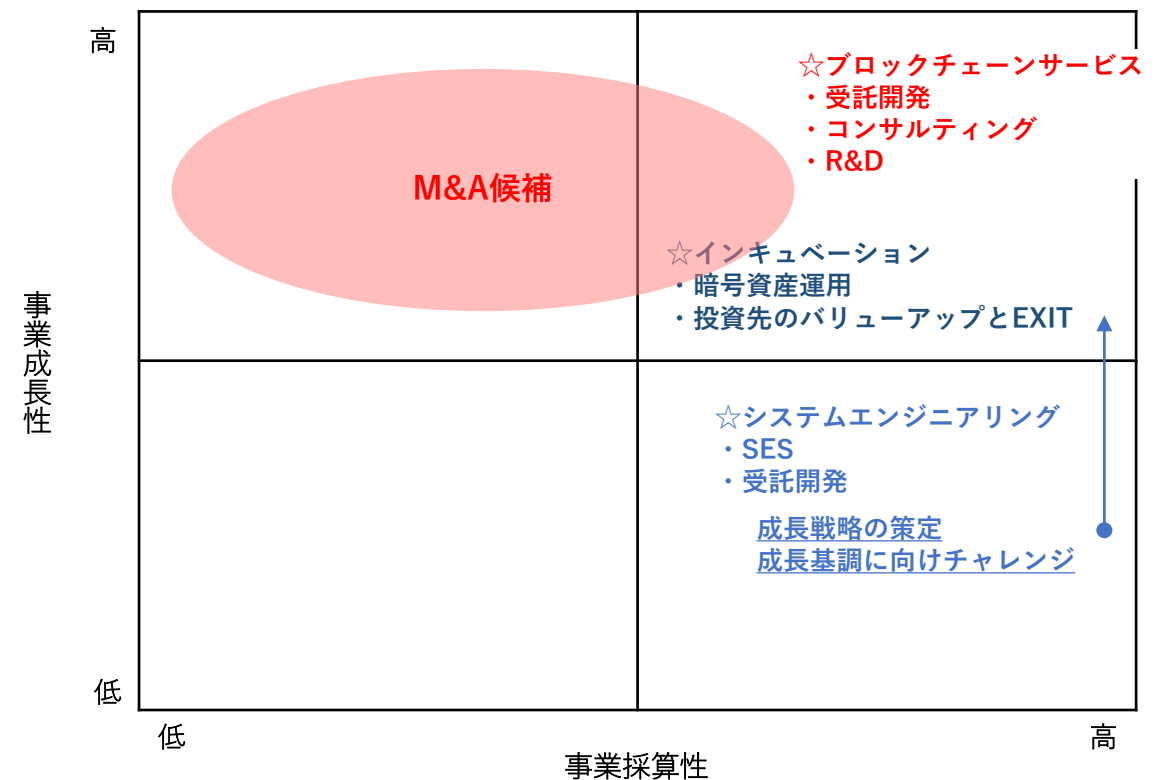


事業ポートフォリオの組み替えを積極的に実施 ブロックチェーン分野に目を向け、積極的に経営資源を投下していく

これまで
(FY21.11月～FY22.5月末)



これから
(FY22.6月～未来へ)



本書は、株式会社クシムに関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述を含みます。これらの記述は、当社が本書の作成時点において入手した情報に基づき、本書の作成時点における予測等を基礎として記載されています。

これらの記述のためには一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述、または前提(仮定)は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、アニュアルレポート等をご参照ください。

本書における将来に関する記述は、本書の作成時点のものであり、本書の作成時点の後に生じた事情によりこれらの記述に変更があった場合でも、当社は本書を改訂する義務は負いかねますのでご了承ください。

本書における当社以外の企業等にかかわる記述は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について、当社はこれを保証するものではありません。本書で使用するデータまたは表現等の欠落、誤謬、本書の使用により引き起こされる損害等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

本書にかかる一切の権利は、株式会社クシムに帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、当社の書面による承諾を得ずに複製または転送等を行わないようお願いいたします。



Kushim

株式会社 クシム

End

2022年9月14日